【3　玉名市　Tamana City】

実山（げんやま）展望公園から

玉名市では、市の南西側に広がる有明海の干潟をはじめ、横島海岸や松原海岸、菊池川流域、JR 鹿児島本線の玉名駅付近や JR 九州新幹線の新玉名駅付近、小天（おあま）温泉、実山や横島山などの展望公園、小岱（しょうだい）山や金峰山の外輪山（二ノ岳・三ノ岳）など、市内各地から有明海越しに“東面～北東面の雲仙岳”が眺望できます。少し変わったところでは、世界一大きい梵鐘を有する蓮華院誕生寺奥之院の五重塔から眺められます。市内の小中学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。また、市内の方言では、睡魔で船を漕ぎ始めた人を見て“島原さん（島原の方へ）行きよる”と表現されます。対岸の雲仙岳山麓（島原）は、船で行かれる身近な別世界、というわけです。

明治 29 年に旧制第五高等学校（現・熊本大学）へ赴任した文豪・夏目漱石は、小天温泉へ旅行した際、背後に金峰山系が迫り、前方に平野が広がり、有明海の奥には雲仙岳が浮かぶ当地の風景を“桃源郷”と評して気に入り、当地を舞台に小説「草枕」を執筆しました。その当時をイメージして建設された「草枕温泉てんすい」では、目の前に雲仙岳がそびえる露天風呂が人気を博しています。

市の南西側に広がる有明海の干潟は、全国一の規模を誇りますが、その干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を菊池川や白川が日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。また、荒尾市との間にそびえる小岱山や、熊本市との間にそびえる金峰山の外輪山からは、東に阿蘇山が眺望でき、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形（※阿蘇地域のページ参照）を視覚的にイメージすることも可能です。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、玉名市内を旅してみませんか？

●玉名市の観光情報はこちら　⇒　玉名観光協会　www.tamalala.jp/

小岱山の唐渡岩から

JR 九州新幹線の車窓から